副市長 …… 俵　　輝孝君
副市長 …… 一宮　　努君
教育長 …… 糸瀬　英俊君
総務部長 …… 犬束　幸吉君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 阿比留満也君
しまづくり推進部長 …… 藤田　浩徳君
観光推進部長 …… 平間　博文君
市民生活部長 …… 阿比留忠明君
未来環境部長 …… 三原　立也君
福祉部長 …… 藤原　亘宏君
保健部長 …… 阿比留正臣君
農林水産部長 …… 平川　純也君
建設部長 …… 原田　武茂君
水道局長 …… 神宮　秀幸君
教育部長 …… 庄司　克啓君
中対馬振興部長 …… 永留　恵美君
上対馬振興部長 …… 玖須　博一君
消防長 …… 井　　浩君
会計管理者 …… 横松　美穂君
監査委員事務局長 …… 釜山　直樹君
農業委員会事務局長 …… 栗屋　孝弘君

午前10時00分開議

○議長（春田　新一君）　おはようございます。

ただいまから、議事日程第４号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（春田　新一君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、３人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　皆様、おはようございます。１０番議員、新政会の坂本充弘でございます。今日は２件の質問を予定しております。１件目は、有人国境離島法の改正・延長に

向けた要望の現況と今後の見通しについて、２件目は、街灯の設置についてでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

１件目の有人国境離島法の改正・延長に向けた要望の現況と今後の見通しについてでございますが、御承知のように、同法は平成２８年４月に、当時、自民党の離島振興特別委員長であられました元衆議院議員、谷川弥一代議士の並々ならぬ御尽力により成立し、平成２９年４月に施行されました。本当に大きな実績を残されたと思っております。

しかしながら、この法律は１０年間の議員立法であり、令和９年３月末が期限となっております。

これまでに航路・航空路運賃の低廉化事業や、物資などの輸送コスト支援事業、雇用機会の拡充を図るなど、島民の生活や産業を支える重要施策の根幹をなす法律であります。

正式には、有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法と称し、今もなお人口減少や高齢化が進む中で、安全保障環境も厳しさを増しており、有人国境離島が今後も我が国の領海や排他的経済水域、ＥＥＺの保全などの役割を安定的かつ継続的に果たせるよう、法の延長と改正がぜひとも必要であります。

有人国境離島地域は全国に２９地域１４８島あり、そのうち特定有人国境離島地域は８都道県の１５地域７１島で、本県においては、対馬・壱岐・五島列島の３地域４０島が全て特定に指定されております。

昨年の１２月６日には、対馬市交流センターにおいて、確実な延長の実現を目指した有人国境離島法改正・延長対馬市総決起大会が開催され、主催者、来賓、市民約７００人が参集し、春田議長が大会決議文を読み上げ、満場一致で採択されました。いま一度、大会決議文を御紹介いたします。

大会決議、対馬市は我が国の国境域に位置し、対馬海峡を通じて近隣諸国との接点を形成するとともに、領海及び排他的経済水域の保全や周辺海域における海洋資源の確保・活用、また、海上交通の拠点としての機能を有しており、国家の安全保障と経済の発展において重要な役割を担っている。

しかしながら、対馬市を取り巻く環境は、急速な少子高齢化、若年層の流出による人口減少、基幹産業である農林漁業などにおける担い手不足、人の往来や生活物資等の輸送に多くの費用を要するなど、地域の持続性に深刻な影響を及ぼしている。

国境離島としての国家的使命を果たすためには、住民が安心して生活し、持続的かつ健全な経済活動を維持できる環境の整備が不可欠である。住民生活の安全と安定を確保することは国家の利益に直結するものであり、私たち対馬市民は、地域振興及び地域の持続可能な発展に向けて全力で取り組む所存である。

よって、政府並びに国会に対し、現行の有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法について、次の事項を強く要望する。

１つ、地域実情、社会経済状況に即した法改正と確実な延長。

１つ、関連施策の支援制度充実と必要予算の確保。

１つ、有人国境離島地域保全のための港湾等整備促進及び国の行政機関設置と防衛体制の強化。

以上、対馬市民の総意と未来への責任を胸に、ここに決議する。令和７年１２月６日、有人国境離島法改正・延長対馬市総決起大会。

そして、最後に参加者全員で頑張ろうコールを行い、法改正・延長への結束を確認したところでございます。

５月２１日には、県内１０市町でつくる県離島振興協議会と、県内１５市町でつくる県過疎地域協議会――これは比田勝市長が会長さんだと思います。この総会が合同で開催され、決議が採択されたと聞いております。

５月２７日には、県国境離島市町議会連絡協議会と、７市町の首長が自民党と内閣府に要望もされております。

市長におかれましては、今まで幾度となく要望に尽力されてこられたと思いますが、国の方向性の見通しについて見解を伺います。

２件目の街灯の設置についてですが、比田勝港国内ターミナルにフェリーが到着し、お客様が暗い中、スーツケースを引いて歩いておられます。ベイセブンブリッジまでの間に街灯が設置されていないわけではありませんが、間隔も遠いようにありますし、歩道のところが暗いように感じます。

フェリーげんかいから航海時間が約１時間早くなった新鋭船のフェリーうみてらしが就航して、７月で５年になります。フェリーも未明の暗いうちに到着いたしますし、ウオーキングをされてある方もいらっしゃいます。防犯上のこともありますので、早急に調査の上、整備ができないかお伺いいたします。

以上の２件でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。坂本議員の質問にお答えいたします。

初めに、有人国境離島法の改正・延長に向けた要望の現況と今後の見通しについてでございますが、有人国境離島法が令和９年３月末に期限を迎えますことから、これまで、市単独、長崎県主導、対馬市国境離島新法協議会との合同要望など、市議会の御協力もいただきながら、各方面から国に対して要望を行ってきたところでございます。

また、令和７年１２月には、市民の声を中央に届けるための決起大会を開催し、市民総意の同

法の改正・延長に向けた取組を行いました。今年度においても、引き続き各方面と連携しながら、要望活動を続けているところでございます。

要望活動は、長崎県選出の国会議員の先生方をはじめ、関係する国会議員、そして、関連省庁などに対し行っており、御意見などを伺う中でも、我が国の領域や排他的経済水域の保全のために、有人国境離島が担う役割は非常に大きく、その有人国境離島の地域社会維持は国を守ることにつながるなど、同法の改正・延長に向けた前向きな御意見を数多く頂いており、併せまして同法の支援制度拡充についても必要であると伺っております。

また、過疎化・少子高齢化や人口減による人材不足の深刻化、農林水産業をはじめとした基幹産業の不振など、国境離島を取り巻く状況の厳しさについても御認識いただいております。

これまでも市といたしましては、法の改正・延長に向けて鋭意取り組んでまいりましたし、その重要性についてもお伝えしてきたところでございます。

現時点においても特別国会が開催されており、改正法案の提出と成立を今国会中で目指しているとの情報もございます。引き続き、状況を注視するとともに情報収集を行い、必要に応じてさらなる要望活動を実施してまいりますので、今後におきましても、市議会の御協力を賜りますようお願いいたします。

次に、比田勝港国内ターミナルからベイセブンブリッジまでの街灯の設置についての御質問でございますが、議員御指摘の区間における市の防犯灯は、比田勝港湾の臨港道路上にある県設置の街灯を含め、現在１７基、そのうち市の防犯灯が１１基が設置されております。

市の防犯灯については、対馬市防犯灯設置基準に従い、原則として多数の歩行者が通行する道路や通学路のうち、主要な箇所などへの設置を基本としており、夜間の安全を確保する目的で、おおむね５０メートルから１００メートル間隔で設置しているところでございます。

フェリーを下船後、国内ターミナルから徒歩で比田勝方面へ移動される利用客の人数までは把握しておりませんが、明るさの確保対策としましては、既設ＬＥＤ型ライトの更新、設置間隔の見直し等が考えられますので、当該区間を再点検し、順次更新を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　御答弁ありがとうございます。

今国会中に成立を目指していくということで動きがあっているという情報を得まして、今のところは安心をしておるところでございます。

報道によりますと、今回の延長案では新しい追加地域、新島が入っているという情報でございますが、このことについて把握されておりますでしょうか。分かりますなら追加地域を教えてください。

それと、新しい追加地域が入ってくるということは、それだけ有人国境離島は国を守ることにつながる重要な位置づけだと思います。現在、令和７年度当初予算は５５億円だと聞いておりますが、これは例年より５億円多くなっているということでございますので、改正後のこの予算規模はどのぐらいになる予想だと想定をしておられるか、感じておられるならば、御答弁をお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今度の改正につきましては、４地域、６島が追加指定になるというふうに聞いております。この４地域と申しますのが、東北の日本海側の粟島等ですね。それから、北海道の離島でございます。それとまた、今度は小笠原のほうの離島ということで聞いているところでございます。

まして今、今度の有人国境離島法の予算拡充についても議員おっしゃられるように、今年の予算では５５億円がついておりますけども、今後これが幾らになるかまでは私たちも聞いてはまだおりません。今国会中の中でも、いろいろ議論を重ねられて決定するものというふうに思っております。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　この延長がもしかなった場合、今まで市民から運賃低廉化の要望で、島内出身者についても補助金枠の拡大についての要望がかなりあっていたと思いますが、このことについて市長はどのようにお考えでしょうか。（発言する者あり）

運賃低廉化の要望で、島内出身者についても、島内に今在住している方だけじゃなくて、出身者についても要望があっていたと思うんですけれども、このことについての補助金枠の拡大についての考えは、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　有人国境離島出身の方たちの運賃助成につきましては、有人国境離島法が平成２９年に成立しまして、それから、これまでも多くの方々から、その要望は受けてきたところではございますけども、現在の予算枠の中では難しいということでございます。

今後におきましても、確かにそれは、各有人国境離島の活性化を目指す上では必要なことではあろうかとは思いますけども、なかなかその予算枠の拡充について難しい状況でもあろうというふうには思っております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　最近でも中国海警局の船が我が国の排他的経済水域に、いや、領海に進入する報道が後を絶ちません。

我が国の形態上、有人国境離島は国を守る重要な要であります。領海には排他的経済水域、ＥＥＺ保全をするためには、今、１０年の延長案、時限立法ではなく、私は、本当は半永久的な恒久法にしなければならないと思っているのですが、難しい。

それができないのなら、次の更新は、今１０年の更新というふうになっているようですけれども、初めての更新で、今１０年というふうになっているようですけれども、それが５年、６年たちますと、また要望活動がずっと連続的にしていかなければならないというふうになってくると思います。

この更新を１５年か２０年に延長ができれば、今後は期限の延長についても要望をしていかなければならないと思っておりますけれども、この期限については、市長は、お考えは、どのように考えておられますか。感想をお聞かせください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　有人国境離島法の１０年ということでございますけども、この法律関係につきましては、他の離島振興法や過疎法等につきましても、時限立法で１０年の法律でございます。

この有人国境離島法だけを１５年とか２０年とかというのは、なかなか厳しいものかと思っておりますので、さらに、また今回成立して、次も存続を目指していかなければならないものというふうに考えております。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　この法律は、市長が初当選された直後の平成２８年４月に成立して、そして１年後の平成２９年４月に施行されました。同年の５月の市議会議員選挙において、私も初当選をさせていただきましたので、施行された中での出発でした。

当初は、新政会の先輩議員らと谷川先生を訪問した際のことをよく思い出します。それは「僕が国会議員の先生方に頭を下げてようやくつくったこの有人国境離島法で、交付金を確保しても全然利用しないじゃないか」と、よくその場で言われました。施行されて、はや９年がたちましたが、当初の状況と現在の状況の感想を、感じておられるところをよろしくお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　そこの数字的なものにつきましては、担当部長のほうから答えてもらいます。

○議長（春田　新一君）　しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田　浩徳君）　御質問にお答えいたします。

この交付金の活用状況でございますが、年度ごとに数字のほうを読み上げさせていただきます。

スタートの平成２９年度におきましては、国費のほうを約７億９，０００万円頂いております。

平成３０年度が約７億７，０００万円。令和元年度が約７億円、令和２年度が約５億６，０００万円、令和３年度が６億８，０００万円、令和４年度が約７億２，０００万円、それと、令和５年度７億７，１００万円、令和６年度が７億２，６００万円と、それと、令和７年度は８億円を超えていたかと思います。８億４，２００万円です。

国全体の予算を５０億円と考えますと、対馬市、かなり交付金のお世話になっているかと思いますので、今後も延長されて予算のほうを増やしていただいて、どんどん活用していきたいと思っております。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　もう１点、平成２９年度から現在分かるところまでで結構ですので、運賃低廉化、そして、輸送コスト支援、雇用機会の拡充、滞在型観光促進の部門別にトータルの交付金が分かればお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田　浩徳君）　確認ですけど、それぞれの分ですか、運賃低廉化で幾らというふうな。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　はい、部門別で分かりますか。

○しまづくり推進部長（藤田　浩徳君）　一応ありますけど、時間の関係もありますので、後ほどデータをお渡しするということでよろしいですか。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　それでも結構です。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　ありがとうございます。

それでは、街灯設置のほうに移ります。

現在設置してある照明器具の間隔が長いようにあるし、歩道が照らされてないようにあります。歩道は浜側と山側、浜側はないんですかね。山側にあるんですけれども、大概浜側のほうを歩いておられるようなんですね。ＬＥＤ照明という器具になっているようですが、何か暗く感じるんですね。規定された機種か何かになっているのでしょうか、その辺詳しいところは分かりますでしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほども答弁いたしましたとおり、ここにあるのは、現在１７基がございますけども、そのうちの市の防犯灯は１１基でございます。この１１基のうちの２基が旧型であるといったことで、経年劣化等によって多少暗く感じているのではないかということでございますので、このことにつきましては、今後更新等を図ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　ありがとうございます。

山側の歩道は石の落ちてくるところもあるし、歩道のところに草が生えて、雨降りのときには水たまりもできているという報告であります。ここもぜひ検証していただいて、改修ができるならお願いをしたいと思います。

それと、ベイセブンブリッジも、オレンジ色の水銀灯でしょうか、４灯あるんですけれども、今現在１灯が玉切れしている状況です。そんなに不便ではないかもしれませんが、やっぱり切れているということがあると、見た目にもよくないと思いますので、こちらのほうも対応ができたらなと思っております。

改修について、最後にもう１回、何かありましたら、部長のほうでもよろしいですので、よろしくお願いします。

○議長（春田　新一君）　上対馬振興部長、玖須博一君。

○上対馬振興部長（玖須　博一君）　比田勝港の国内ターミナルからベイセブンブリッジまでの間につきましては、坂本議員からの一般質問の通告を受けまして、その後、夜のほうも暗さとかを確認しております。先ほど市長が申し上げたとおり、２基、旧式のタイプがついておりましたので、経年劣化による暗く感じる部分とか、今後も確認しながら随時、更新のほうを行っていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　１０番、坂本充弘君。

○議員（１０番　坂本　充弘君）　ありがとうございます。

これで、今日の質問を終了させていただきます。今後におきましても点検をしていただきまして、また、できるだけ改修ができれば、よろしくお願いいたします。終わります。ありがとうございました。

○議長（春田　新一君）　これで、坂本充弘君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　暫時休憩します。再開を１０時５０分からとします。

午前10時36分休憩

午前10時50分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　皆様、おはようございます。ちょっと風邪ぎみで声がガラガラ